

令和4年度事業報告書

事業の概要

令和4年度（以下「今年度」という。）においては、一般法人法等の関連法案及び定款に遵守した会の運営に務めるとともに、定款に定めた目的及び事業を達成するため、当該年度事業計画の活動指針に沿って、教育・学術・文化の振興のための各種事業を滞りなく実施した。

計画していた各種事業について、平成10年の授賞制度改正以降、25回目を迎えた令和4年度アカデミア賞表彰事業は、会員から推薦のあった候補者について、選考委員会において慎重に選考を重ね、理事会の議を経て、文化・社会部門2名の受賞者を決定した。授賞式は、多くの会員及び関係者の協賛のもとに盛大にかつ好評のうちに催された。

この詳細については、本会HP及び会誌ACADEMIA No190 2023.2に掲載されている。

第11回（2022年度）アカデミア教育研究助成事業は、会員のほか各都道府県及び政令指定都市の各教育委員会、並びに関係教育機関へ応募要項を送付するとともに、本会HPに掲載するなど広く周知を図った結果、多数の応募が得られた。応募の教育研究について、選考委員会において選考を重ね、理事会の議を経て、グループ研究1件に対し助成を決定した。

講演会等については、新型コロナウイルス感染防止のため、恒例のアカデミア賞受賞者による記念講演のみの開催となった。アカデミア賞受賞記念講演の詳細は、会誌アカデミアNo190 2023.2並びに本会HPに掲載している。

昭和21年創刊の機関誌「会誌ACADEMIA」は、2012年以降環境に関連する課題を取り上げ、今年度もさらなる充実を図るとともに、多くの関係者の協力を得て滞りなく5回刊行し、会員及び関係機関等に広く配布した。

主な事業

1. 教育・学術・文化の振興のための顕彰及び助成

1) 文化・社会及び国際交流に著しく貢献した人材に対するアカデミア賞の授与

令和5年1月28日（土）都ホテル京都八条において、令和4年度アカデミア賞授賞式を挙行し、次の各氏に対しアカデミア賞を授与した。

【文化・社会部門】

山極 壽一氏：総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授、前京都大学総長

授賞理由：ゴリラ研究の第一人者として、霊長類学・人類学の進展に貢献並びに中央アフリカの自然と人の共生、保護と地域開発に寄与

【文化・社会部門】

小泉 凡氏：小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学名誉教授

授賞理由：小泉八雲の民俗学的業績を究明し、八雲を日米の民俗学の先駆者として位置付けた功績並びに地域振興及び国際的な文化交流に寄与

2. 教育・学術及び文化に関する講演会及びセミナー等の開催

○本部主催講演会等

令和4年度アカデミア賞受賞記念講演

開催日時：令和5年1月28日（土）11時～12時30分

開催場所：都ホテル京都八条「陽明殿」

山極 壽一氏：総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授、
演題：「ゴリラに学んだ人間の本質」

小泉 凡氏：小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学名誉教授
演題：「文化資源として活かす作家と作品
～小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）をめぐる～」

3. 機関誌の刊行

『会誌 ACADEMIA』の発行

○№186 2022.4 2022年沖縄シンポジウム「琉球の島々から日本の行く末を見据える」

- | | | |
|--------------------------------------|------------------------|-------|
| I 趣旨説明 | 京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長 | 田中 克 |
| II 基調講演：「南シナ海の島々から」 | 海洋冒険家 | 八幡 暁 |
| III パネル討論 | | |
| 《コーディネーター：（一社）サステナブル経営推進機構理事長 石田 秀輝》 | | |
| 話題提供1「宮古島から」 | 琉球大学島嶼地域科学研究所専任講師 | 山極 海嗣 |
| 話題提供2「与論島から」 | 琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科准教授 | 高橋 そよ |
| 話題提供3「久米島から」 | NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表 | 野中ともよ |
| 話題提供4「沖永良部島から」 | oldie-village 代表 | 古村英次郎 |
| 話題提供5「サンゴ礁の島々から」 | 東京経済大学全学共通教育センター教授 | 大久保奈弥 |

○№187 2022.7 「絶滅危惧種円卓会議～絶滅危惧種と森里海～」

- | | | |
|-------------------------------------------------------|--------------------|-------|
| I. 趣旨説明：「諫早から全国への森里海を結ぶフォーラムの展開ー絶滅危惧種とともに
拓く未来社会ー」 | 森里海を結ぶフォーラム実行委員会代表 | 田中 克 |
| | 事務局 | 菅野 直子 |
| II. 基調講演「自然の権利と森里海」 | 大阪大学大学院法学研究科教授 | 大久保規子 |
| III. 講演1「わたしたち（絶滅危惧種）には、社会を変える力がある！そして子ども達にも」 | 認定NPO 法人アサザ基金代表理事 | 飯島 博 |
| IV. 講演2「森里川海大好き！子どもたち」 | 一般財団法人自然公園財団専務理事 | 鳥居 敏男 |
| V. 絶滅危惧種円卓会議【絶滅危惧種7種（代理人）による意見交換】 | | |

【絶滅危惧種からの報告】

報告1「シマフクロウ・エイドの取り組み」

NPO 法人シマフクロウ・エイド代表理事	菅野 正巳
事務局	菅野 直子

報告2「長崎県対馬における佐護ツシマヤマネコ米の取り組み」

佐護ヤマネコ稲作研究会事務局長	吉野 元
-----------------	------

報告3「生きている化石 カブトガニ」

山口カブトガニ研究懇話会代表	原田 直宏
----------------	-------

報告4 「コウノトリ保全の取組み」	NPO 法人とくしまコウノトリ基金理事	柴折 史昭
報告5 「琵琶湖の生きもの回復の取組み」	琵琶湖博物館特別研究員	藤岡 康弘
報告6 「川がき（川遊びをする子供）」	一般社団法人長良川カンパニー事務局長	下田 知幸
報告7 「やながわ有明海水族館」	やながわ有明海水族館館長	亀井 裕介

○№188 2022.10 「ふるさと創生における開拓者精神—遠野・気仙、京都、神戸を中心として—」

【総論】 「ふるさと創生における開拓者精神—遠野・気仙、京都、神戸を中心として—」

京都大学名誉教授、(一社)文化政策・まちづくり大学校理事 池上 惇

【招待寄稿】 「『森里海』の連環—ふるさと創生文化を見据えて海・山・里がつながる日本社会」

京都大学名誉教授・舞根森里海研究所所長 田中 克

【各論】

「京都における開拓者精神の歴史的な創生と実行力の蓄積・積み上げ—コミュニティの

生業・生活・文化・人材育成の面からの検討—」 立命館大学経済学部客員教授 金井 萬造

「阪神・淡路大震災における復興と2つの道」 国民文化政策研究教育学会理事 池田 清

「丹後シルク 伝統文化のこれからを拓く—最近の動向と展望—」

デザイナー、(株)デザインプラザマックス専務取締役 越智 和子

「岩手県遠野市内における産直市場の形成と発展」 立教大学経済学部助教 白石 智宙

「私の遠野物語—遠野緑峰高校の危機と再生」 ふるさと創生大学運営委員 藤井 洋治

「源流文化に内在する未来—文化資本が拓く人間像・社会像—」

ふるさと創生大学代表理事 千葉 修悦

「生活建築思想と『ふるさと創生』観について」

HAS 建築研究所一級建築士事務所代表 廣野 滋

「工芸社会の創造—職人企業が「共成」するエコシステム—」

一般社団法人文化政策・まちづくり大学校理事 岩田 均

「西陣の現場.最前線から見た資本主義への考察—二宮尊徳翁より『経済なき道徳戯言であり、

道徳なき経済は犯罪である』—」 西陣麻島織物代表取締役 麻島 正資

「京都のまつりと産業発展との関係」 市民大学院研究員 岸本 正美

「京都と遠野・気仙の野菜の生産・調理・消費・廃棄における地域間比較—京野菜をめぐる

伝統と交流による食文化を中心として—」 食文化・食経営研究家 岸本 直美

「現代産業における工芸職人」 SBI 大学院大学客員教授、名古屋学院大学名誉教授 十名 直喜

○№189 2022.12 特集「こころ・いのちに応える人間関係—コロナ危機にみつめ考える—」

◆はじめに—趣旨説明—「こころと命に応える人間環境を求めて—特集にあたって—」

京都大学名誉教授、(公財)日本臨床心理士資格認定協会専務理事 藤原 勝紀

◆こころと命をみつめ考える心理臨床—コロナ危機の中からの基調提案—

「こころといのちに応える心理臨床—人間性の視座から」

奈良県立医科大学特任教授・京都大学名誉教授 皆藤 章

「コロナ危機を生き抜く道筋を振り返っての試論」

岡山大学名誉教授・就実大学名誉教授 山本 力

「福島を生きる—東日本大震災、原発爆発、コロナ禍の中の「無力」を生きる—」

福島学院大学客員教授・茨城大学名誉教授 岸 良範

◆心の専門家が営みを通してみつめ考える—コロナ危機に想う臨床心理士—

「死にゆく歩みに寄り添うこころ—ターミナルケア領域における心理支援から—」

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科教授 中原 睦美
「心の専門家が営みを通して見つめ考える～コロナ危機に思う臨床心理士～」

元立正大学心理学部教授・三田心理臨床研究所所長 岡本 淳子
「児童生徒のこころ・いのちに向き合う学校臨床心理士―スクールカウンセラーをコロナ危機に見つめ考える―」

明星大学教授 福田 憲明
「コロナ禍で考え続けたこと～子どもにとって、人間にとって、本当に大切なものって？」

新潟県新発田病院・小児心身症科部長 塚野 喜恵
「学生期の若者にとってのコロナ禍―学生相談カウンセラーの視点から見えること」

甲南大学文学部教授 高石 恭子
「災禍を超えて 生きる人々とともに―海外での心理臨床活動を通して―」

帝京平成大学名誉教授 中谷三保子

◆こころと命をともにみつめ考える―心の専門家に期待する―

「コロナ危機がもたらすもの―心の専門家への期待―」

(公財)世界人権問題研究センター理事長、神戸大学名誉教授 坂元 茂樹
「現代社会のストレスと対処」 福岡いのちの電話理事長、中村学園大学学長・前九州大学総長 久保 千春

「人間の条件 (conditio humana) 再考」
京都大学学際融合研究教育推進センター特任教授、京都大学名誉教授 鈴木 晶子
「ライフ・コンシャスの時代に」

多摩大学名誉教授・宮城大学名誉教授、NPO 法人知的生産の技術研究会理事長 久恒 啓一
「転機」 武田設計一級建築士事務所代表取締役 武田 正義

◆こころと命を地域でともに支え合う―地道な煌めく取り組みから―

「広報誌 長野いのちの電話 2021年冬号より『生きるということ』」
合同会社夢倶楽部しらかば信州カウンセリングセンター所長、臨床心理士、公認心理師 有賀 和枝
「新型コロナウイルス感染状況下におけるストレス・マネジメント・プログラムの開発と実施」
医療創生大学心理学部教授 窪田 文子、医療創生大学心理学部講師 原田真之介
「北の大地で心を支える」 北海道教育大学教授 平野 直己

◆特別再録 [現代のエスプリ]別冊『教育心理臨床パラダイム』

座談会：「教育支援における学校臨床心理士の意義を考える―スクールカウンセラー事業のさらなる展開を求めて―」2008年1月15日発行

○№190 2023.2 「令和4年度アカデミア賞」

■令和4年度アカデミア賞受賞者業績概要

「文化・社会部門」 総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授 山極 壽一
小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学名誉教授 小泉 凡

■アカデミア賞受賞記念講演

「ゴリラに学んだ人間の本質」 総合地球環境学研究所所長 山極 壽一
「文化資源として活かす作家と作品～小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン) をめぐって～」
小泉八雲記念館館長 小泉 凡

■アカデミア賞授賞式・祝賀懇親会

■アカデミア賞歴代受賞者一覧 授賞制度改正 (平成10年度) 以降

■第11回 (2022年度) アカデミア教育研究助成の決定

【グループ研究】研究テーマ：「芦北湾におけるアマモ場の再生～熊本豪雨災害からの復興～」
熊本県立芦北高等学校林業科アマモ場再生研究班

■アカデミア教育研究助成報告「芦北湾におけるアマモ場の再生～熊本豪雨災害からの復興～」
熊本県立芦北高等学校林業科アマモ場再生研究班代表 教諭 前島 和也

4. その他の事業

「理事会・定時社員総会開催」

①第1回理事会

日時：令和4年6月17日（金）午後2時～3時

場所：都ホテル京都八条「桂の間」

- 議案：1. 令和3年度事業報告
2. 令和3年度公益目的支出計画実施報告書
3. 令和3年度収支決算（財務諸表）
4. 特別積立資産運用

②定時社員総会

日時：令和4年6月17日（金）午後3時～3時30分

場所：都ホテル京都八条「桂の間」

- 議案：1. 令和3年度事業報告（報告）
2. 令和3年度収支決算
3. 令和3年度公益目的支出計画実施報告書（報告）

③第3回理事会

日時：令和4年11月18日（金）午後2時～3時

場所：都ホテル京都八条「深草の間」

- 議事：1. 令和4年度アカデミア賞選考
2. 第11回（2022）年度アカデミア教育研究助成選考
3. 次期役員候補者選考委員会設置

⑤第4回理事会

日時：令和5年3月24日（金）午後2時～3時

場所：都ホテル京都八条「八坂の間」

- 議事：1. 令和4年度事業報告
2. 令和4年度収支決算
3. 令和5年度事業計画
4. 令和5年度収支予算
5. 令和5年度定時社員総会開催
6. 令和5年度アカデミア賞選考委員会設置
7. 次期役員候補者選考状況報告
8. 次期評議員候補者選考方法
9. 業務執行理事(会長・専務理事)の職務執行状況(報告)